



「笑顔とつながり」

永田台

サステイナブルスクール

No.519 4月号
横浜市立永田台小学校
TEL(714)4277
平成31年4月5日



進んであいさつ
笑顔あふれる
住みよいまちに



受け取ったバトン

校長 武山 朋子

南永田団地を彩る桜の花は、永田台小学校にも薄紅色の花弁と、甘い香りの風を運んでくれます。4月当初の低い気温が、入学式まで花をもたせてくれました。

平成31年度、新しい年の始まりです。1か月後には令和の時代がスタートします。

3月に、学校からは77名の卒業生が巣立ち、本校で勤務した何名もの職員が去っていきました。さびしい別れの時でもありましたが、それは大切な思いのこもったバトンを預かった時でもありました。そして4月、新たな職員を加えたスタッフで、一つ進級した子どもたちと、新入生を迎えました。平成31年度の永田台小学校のみんなで、それぞれがバトンを受け取り、新しい1年が始まったのです。今年度、永田台小学校は新1年生61名を迎え、全校児童465名（4月4日現在）でのスタートとなりました。

前日準備では、ピカピカの6年生が最上級生として登校し、笑顔で心と力を合わせて作業に取り組む姿が見られました。

毎年この光景を見ると思うことがあります。それは、子どもにとって「自分が誰かの役に立っていると思える」ということはとても嬉しいことなのだと思います。1年生のために前日から登校して頑張っている自分。「さすが6年生！」と言われて、面映ゆいけれどもちょっと胸を張りたくなる自分。これからの学校生活の中でもこうした経験を積み上げ、自分が価値のある存在だと思える自己肯定感を育て最上級生としての自覚を確かなものとしていくことでしょう。

自己肯定感の大切さは、すべての子どもたち、そして大人たちにとっても同じです。でも、自己肯定感の源というのは、発達段階により異なるのだそうです。

ひたすらに愛してほしい幼児期があり、たくさん褒めてほしい児童期があり、自分のことを分かってほしい思春期があり、さらに自分を認めてほしい青年期があるといえます。そしてそれぞれの子どもの姿をよく見つめながら気持ちをしっかりと受け止め、いけないことはいけないときちんと教えてくれる、そんな大人を子どもは信頼するといえます。

大切な小学校生活の6年間で、一人一人の子どもにとって確かに自己肯定感を育む時であるよう、前年度のバトンをしっかり受け取り、ご家庭のみなさま、地域のみなさまと力を合わせ今年も丁寧に取り組んでいきたいと思っております。どうか今年度も、本校の教育活動へのご理解ご協力を、よろしくお願い申し上げます。

